

令和6年度自己評価表（中間評価）

中長期目標	1 個々の持つ個性、適性、可能性を最大限に開花させる 2 自主・自律の精神と、他者への思いやりを持った心の育成と創造性豊かな人格を形成する 3 地域の特性を生かして成長し、確かな知識と技術を身につけ未来を切り開く人間を育成する	今年度の 重点目標	1 基本的生活習慣の確立 【あいさつ 時間を守る 身だしなみを整える】 2 基礎学力の向上 3 ふるさとキャリア教育の推進 4 地域との連携と情報発信 5 業務改善の取組
-------	---	--------------	---

年 度 当 初				評価結果（ 9 ） 月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣の確立	■頭髪服装指導に努めたが、指導にのらない生徒が一部いる ■問題行動については、各学年・分掌と連携して指導・対応し前年度比30%減 ■遅刻者数は前年度比20%増。特定の生徒が多い ■生徒会生徒を中心に挨拶運動を行ったが、「分離礼」「静止礼」の定着が不十分	■生徒が主体的に、基本的生活習慣の確立に取り組んでいる ■問題行動を繰り返す生徒が減少する ■遅刻者数を昨年度より10%減少する ■「分離礼」「静止礼」を習慣化する	■「進路にふさわしい頭髪・服装」について理解させ、自ら意識して身形を整えられるように粘り強く指導する ■生活指導、遅刻指導については、全職員で共通理解し指導できる体制づくりをし、粘り強い指導を続ける ■授業での「分離礼」「静止礼」を継続し、日頃から「自ら挨拶をする」習慣が身につくよう指導する	■髪型について校則を変更したが学年によっては違反が目立った ■ピアスを開けた生徒が増えている ■全体的には少ないが、一定の生徒の遅刻が減らない。2年生では1年時より増える傾向が見受けられた ■昨年に比べると自主的に挨拶を行える生徒が増えてきている。分離礼について実習前指導を通して、定着しつつある（特に1年生）	B	■今後の進路指導において、生活指導部、進路指導部と連携し、規範意識の醸成を図る ■継続して粘り強い指導を行う
	豊かな心の育成と健やかな身体づくり	■学年会や教科担当者を通して、生徒情報を積極的に共有できている ■全職員が連携し、要支援生徒に寄り添った支援を行うことができている ■朝読書の達成率が全体では91.4%と目標(96%)には達しなかったが、昨年度(88.9%)より微増 ■境港市の協力や、各担任の創意工夫によって人権教育LHRの内容がより充実した ■生徒会行事に生徒の意見を取り入れ、改革に着手	■全教職員が連携し、生徒情報の共有と生徒理解に努め、生徒に寄り添った指導ができている ■朝読書の達成率96% ■人権感覚を身につけ、いじめのない学校づくりができる ■部活動も含め生徒会活動が充実し、学校生活での満足度がある	■職員間での連携を密にし、生徒情報を共有し、生徒に寄り添った指導を心がける。いじめアンケートやハイパーQUの活用 ■読書喚起を引き続き行いながら、生徒の読書環境の充実に努める ■人権を配慮した生活面での援助や指導についても教職員の連携を図りながらいっそうの充実を図る ■生徒の意見を取り入れながら、伝統の継承と進化を引き続き検討し、魅力あるものを追求していく	■QU アンケートの結果について、支援を要する生徒の情報を確認し、担任と情報を共有することができた ■学年会や教科担当者を通して、生徒情報を共有できた。 ■朝読実施態調査（6月）では91.8%と、昨年度（94.8%）より達成率は減少した。ただ、貸出冊数は前年度より増加（1人5.6冊→7.1冊）しており、読書への興味関心は見られる ■職員研修などにより、人権に関するアンテナを高くはれる部分が増え、生徒への人権意識が向上した	B	■ハイパーQUに関しては10月にも実施し、生徒の状況がどのように変化したか5月の結果と比較、確認する ■今後も教員間で生徒情報を共有し、早期対応を心がけていく ■引き続き、読書環境の充実に努めるよう、担任団を中心に連携しながら行う ■共通意識と人権意識を高めながら、連携して生徒の指導を行う
2 基礎学力の向上	基礎基本を大切にし、生徒が主体的に参加する授業づくり	■マナトレに関しては、年間計画に合わせ毎週意欲的に取り組み、基礎力診断テストの結果に微増ではある効果が表れている ■ICT 機器を活用したPBL（課題解決型学習）への取り組みが、少しずつではあるができるようになってきた	■生徒が主体的に学習に取り組む授業を推進するとともに、マナトレや補習等を充実することにより、基礎学力が定着・向上している ■ICT 活用の校内研修や研究授業を実施し、授業力が向上する	■今後もマナトレを継続して取り組み、基礎学力の向上に努めるとともに、効果の検証を行い、生徒自身が効果を実感できるよう、今後の実施の在り方を検討していく ■生徒一人一台端末導入に対応し、生徒が主体となる学びやすい授業作りに向け、ICT機器の活用を更に推進する ■生徒の学力向上につながる教員研修等を継続的に受講する	■多くの生徒は落ち着いてマナトレに取り組んでいる ■授業やクラス連絡などで積極的にICT機器を活用している ■4月に基礎力診断テストを実施した。基礎力診断テストの結果については、進路希望先の相談や就職推薦会議等の参考データとして活用している ■支援や配慮の必要な生徒等、生徒の多様な状況に対応しての学びの場の確保や学力保障について、共通認識を図ることが非常に難しく、統一感のない学習支援になる状況があった	B	■マナトレの効果を検証する ■引き続き、関係する各教科および各科、分掌と連携を図りながら指導していく ■ICT活用研修を進め、リモート授業が誰でもいつでもできるようなスキルを身につける
	専門的資格取得の促進と魅力ある学科づくり	■外部資源も活用し、地域に貢献できる人材育成のために、専門的な知識・技術の習得に努めている ■4級海技士(航海)3名合格、1級小型船舶操縦士5名、スーパー水産農林業士1名取得 ■自動車整備士登録試験7名全員合格。5年連続合格率100%達成 ■第1種電気工事士7名合格、第2種電気工事士10名合格 ■福祉科介護福祉士国家資格13名合格(14名受験)	■時代にマッチした専門教育を深化する ■将来のスペシャリストが育成できている ■資格・検定試験の合格率が向上 ■各科の連携を密にし、総合技術フェア・課題研究発表会での学習成果の発表が充実	■専門技術者による講義や実技指導を通して、産業界の実態にあった授業を実施し、専門科目への学習意欲を引き出す ■専門学科の深い学びが高度な資格取得につながり、将来の職業選択にもつながることを早い段階から理解させ、3年間での計画的な資格取得に取り組めるよう指導する ■資格・検定試験に合格することで、生徒の自己肯定感を高めるため、引き続き講習を継続的にを行い、100%合格を目指すよう取り組んでいく	■多くの生徒が資格取得、国家試験への受験に向けて放課後補習に取り組んでいる ■難易度の高い資格に挑戦する生徒が増えている ■多くの社会人講師の授業を実践できている ■実習施設との連携を行い、効果的な学習指導が実施できている ■各科と連携し、資格取得にかかわる外部実習や校内実習での生徒情報の収集に努め、支援や対応へとつなげた	B	■継続して取り組む ■100%合格を目指し、自信を付けさせることで、生徒の自己肯定感を養っていく ■学校生活や校外実習等、様々な場面での生徒情報を各科と共有し、支援につなげたいので、可能限り情報を提供して欲しい
3 ふるさとキャリア教育の推進	キャリア教育の充実	■就職指導、進学指導ともに、多様な生徒状況に対応し、長期にわたって個別の指導に取り組んでいる ■キャリアパスポートは、内容を修正したが、改善すべき事項も残っており、検討が必要である ■すべての科でインターンシップを実施し、経験値の向上につなげた ■就職者の1次内定率が98%であった。学科の専門に関連した企業への就職88%、進学51%	■進路指導計画に基づいた指導の徹底 ■キャリアパスポートを活用した生徒の自己評価と目標修正等の改善を支援し、個性を伸ばす指導ができている ■インターンシップにより職業観・勤労観が身につけている ■進路ガイダンス、保護者説明会が充実している	■生徒状況の多様化、社会情勢に対応した業種・職種研究を深める。進学についても入試の多様化・長期化に対応し、情報の共有や連携体制を強化する。 ■キャリアパスポートの記入形式を見直し、学習、実習、資格取得等と連動させるなど生徒も教員も活用しやすい形式を検討する ■適切な時期での体験的学習活動を実施し、進路選択に活かすとともに、企業との連携を深め、個々の生徒に合ったきめ細かな指導・体験へとつなげる	■キャリアパスポートを使用して学期ごとに活動内容を振り返り、進路意識の向上につなげることができているが、内容について改善すべき点もある ■インターンシップ・社会人講師活用事業などをおし進路意識の向上が行えている ■ミスマッチを防ぐために応募前職場見学の充実を図り、多くの企業と連絡を取り合った	B	■キャリアパスポートの記述形式や記入時期を見直し教員も活用しやすい形を作る ■引き続き、関係する各教科および各科、分掌で連携を図りながら指導していく ■インターンシップは今後も科ごとに状況に応じた時期での開催とする ■多様化する生徒状況、社会情勢に対応した業種・職種研究を深める。進学についても入試の多様化・長期化に対応し、情報の共有や連携体制を強化する
4 地域との連携と情報発信	地域連携と地域貢献	■実習製品の販売会は、延べ1400人の来場者があった。メルカリショップスとの連携も株式会社さくらぎと共同で進めることにより本校の実習製品を全国にPR、販売することができている ■総合技術フェアを地域に公開し昨年の1.89倍となる769名の来場者があった 「学校の雰囲気が良い」92%→96% 「将来職業に就いてから役に立つと思う」95%→96% 「生徒の頭髪服装やマナーなどの指導が十分になされている」89%→92% ■コロナ禍での経験不足や生徒意識の変化などからか地域ボランティア活動に意欲的に取り組む生徒は減ってきている	■地域連携・地域交流活動を通して、生徒が自信を持つとともに、経験値を上げ、役立ち感、有実感を得られている ■地域基幹産業の発展に寄与できる人材が育成されている ■地域と連携したボランティア活動・実習等ができている	■地域や学校、各科生徒にとって学びの多いイベントには積極的に参加し、地域連携をさらに深め、地域貢献に役立つ活動を継続的に行っていく ■ボランティア活動を推進し、自主的に活動できる力を養う ■学校運営協議会を活用した地域連携の推進を行う	■各科の状況に応じた地域交流活動ができている ■総合技術フェアは、広く校地内を開放し多くの施設・設備・生徒の取組みを見ていただくことで、生徒募集にも繋げたい ■生徒の活動や活躍について生徒会新聞を発行するなど、迅速で充実した情報提供を心掛けた ■ボランティア活動に積極的に参加する生徒と、参加しない生徒に二極化している ■授業時間外(放課後)、休日の地域活動やボランティア活動に取り組むエネルギーのない生徒や家庭状況的に厳しい生徒が増えてきている	B	■課題研究を中心に、地域連携を検討し生徒が自信を持つとともに、経験値を上げ、役立ち感、有実感を得られるように努める ■引き続き、実習施設、ボランティア依頼施設と連携する ■生徒会新聞の発行の頻度を高める ■地域活動やボランティア活動への取り組みせ方の工夫や学習活動への位置づけの周知理解、保護者への理解協力を仰ぐなど、コーディネート力を高める
	学校教育活動の情報発信	■公式SNS・学校webページにより、学校行事や各科の取り組みなど積極的に情報発信することにより、本校の教育活動について保護者や地域の理解を深められた ■入学案内パンフレットに「卒業生からのメッセージ」も掲載し、卒業後の進路をより詳しく紹介できるようにした	■特色ある教育活動の公表・発信を通して、学校への理解が深まっている ■適切な情報発信により、志願者が増加する	■方法や機会を工夫し、生徒・保護者・マスコミ等に対して的確な情報発信に努める ■令和6年度は「地域みらい留学」へ参加しネットだけでなく対面で県外の中学生へもPRする	■公式SNS・学校webページを活用し、学校行事や各科の校外等での取組み等の情報発信に努めている ■様々な場面での生徒の頑張りを情報発信できるよう心掛けている ■キッチンカーを利用した「境総合見える化」計画も進めている	B	■今後も、普段の様子も含め情報発信に努める ■学校HPや学校PRについてより良いもの、方法がないか検討を続け、生徒主体の情報発信を取り入れる
5 業務改善の取組	学校業務の精選と効率化	■校内情報共有DBなどを活用し、資料や情報を事前に配布、周知することにより、会議などの時間短縮に努めている。一方でDBの確認不足で、必要な連携や情報共有が不十分になることがある	■会議・委員会の整理、統廃合など業務改善に取り組む、充実した教育活動ができている	■協議、連絡・報告について、事前に関係との話し合いを密にし、必要な情報は自ら確認する	■校内情報共有DBや資料の回覧、ノーツメールをグループ化して、迅速に情報共有するように努めてきた ■1学年担任を中心とした「クラスづくり研修会」を企画しクラス運営について研修をした ■会議の資料を事前に配布し、会議時間の短縮を目指している	B	■継続する ■必要な連絡、連携をとるため、居場所がわかるよう意識してほしい
	長時間勤務者の解消	■「境港総合技術高校部活動に係る活動方針」に定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行っている ■時間外勤務削減は、ほぼ目標を達成している	■時間外業務を月45時間以内とする ■時間外業務を年360時間以内とする	■引き続き、定めた休養日、活動時間を遵守した部活動を行う ■業務内容を見直すとともに、時間外業務についての意識を高め、各自適切な時間管理に努める	■部活動・資格指導で徹底できない時もある ■時間外業務についての意識を高め、時間管理についても各自で努力している	B	■業務分担の適宜見直し、分掌全体で可能な限り連携できるよう情報共有を図る